

・ 日本水産学会・復興支援拠点講演会（平成 23 年 9 月 21 日）

日本水産学会・災害復興支援拠点講演会のご案内

標記講演会（東北大学マリンサイエンス構想と共催）を下記のとおり開催 します。

記

日時： 9 月 21 日（水） 13:30-16:30

場所： 東北大学農学部 大会議室

1. 講演会

- 1-1. 震災後の沿岸海域の水質の状況と水環境保全に向けた課題」西村修（東北 大院工）
- 1-2. 「沿岸部における被災・復旧状況と課題」 田中仁（東北大院工）

2. 調査報告

- 2-1. 沿岸環境調査結果 （復興支援拠点：大越和加、佐々木浩一）
- 2-2. 岩礁域調査結果 （復興支援拠点：吾妻行雄）

事前登録は不要です。皆様のご来場をお待ちしております。

問い合わせ先

〒981-8555 宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町 1_1 東北大学大学院農学研究科・農学部
公益社団法人日本水産学会災害復興支援拠点

メールアドレス：fukkou.shien.kyoten.tohoku.univ（アットマーク）gmail.com

日本水産学会・復興支援拠点講演会 内容メモ (敬称略)

(共催：東北大学マリンサイエンス構想)

2011 年 9 月 21 日 (水) 13:30-16:30

東北大学農学部事務棟大会議室 出席者：約 30 名

挨拶：佐藤実 (東北大院農)、進行：片山知史 (東北大院農)

1 講演会

1-1. 「震災後の沿岸海域の水質の状況と水環境保全に向けた課題」

西村 修 (東北大院工)

① 東日本大震災後の沿岸海域調査報告

【背景】：震災直後、沿岸域にある 12 の下水処理場すべての施設で稼働停止になった。2 か月後には多くの処理場が復旧するも水質は悪化したままであり、水質低下による生態系への影響が懸念された。

【目的】：水質が低下した処理水や汚濁物質が生活環境や生態系にどの程度の影響を与えているのかを調査する。

【対象海域】：宮城県 松島湾、志津川湾、気仙沼湾

【結果：松島湾】

震災直後の 5 月には大腸菌群数が非常に高かったが、7 月には大幅に減少した。また、糞便性大腸菌も同様の傾向を示した。COD も例年より高い数値であった (しかし、松島湾内では、水質が非常に綺麗なポイントもある)。

【結果：志津川湾】

COD の数値は平成 21 年度とほとんど変わらず、大腸菌数も例年と変わらない。志津川湾での大腸菌群数は、5 月より 7 月のほうが多かった。

【結果：気仙沼湾】

底質からの油臭がひどく、多くの炭 (火災の灰など) を含有していた。他の 2 湾よりも大腸菌群数がかなり多かった。5 月よりも 7 月のほうがかなり高い大腸菌群数であり、深刻な状況であると言える。下水処理場を完全に復旧させるには 2～3 年かかるだろう。



講演会の様子